鎔鑛爐の送風は開始したが
作業の開始期は未だ分らぬ
議會解散から増給豫定の當が外れた
急に大藏大臣と打合せて何とかする＝白仁長官談＝

白仁長官は罷業問題の善後策に關し二十七日往訪の記者に左の如く談明せり（八幡電話）

『議會の解散の結果製鐵所の豫算も默目になつて職工側に對し豫算が通過したら何とかなると言つた所謂見込みの文字が取れたので今後は

臨時議會 の召集を

俟たねばならぬ、夫れとても政府が製鐵所の豫算をどれだけ増加して與れるか判らない、自分としては此の際職工に對し豫算の如何に拘らず何とかせねばならぬ、夫れで近日中に再び上京して大藏大臣と打合せ一般の臨時費から支出して貰ふか夫れとも

責任支出 として大臣より勅裁を仰いで貰うかせねばならぬ、で職工に對しては四月一日から名義は別として總收入に於て變らぬやうにしたいと思ふ、二十六日夜も七名の代表者と會て其の事を篤と得心のゆくやうに話したが二十七日朝も更に二名の委員が來たので一々其の話を記錄に止めた、代表者等と會つて話をすると能く要領を得るが、どうも製鐵所を出ると話が判らなくなるので困る、製鐵所としては一日も

早く休業 の撤示を除き事業を開始したいと思ふけれ共、何分にも今の處ではさうもゆかないので止むなく就業職工の増加を待つてゐる、昨夜より熔鑛爐の送風を開始した、此際仕末だからなるべく早く就業を開始したい又職工にして還らがなければ入所さしても差支ないが

當分の間 は「適當の時期が來れば各門を開いて入所を歡迎する」事としてゐる云々』

長官を信賴せん
報告演說會

職工側實行委員は二十七日午前十時市内彌生座及八幡座に於て長官との會見顚末報告演說會を開催せり先づ彌生座に參集し居れる聽衆二千名に向ひ「議會は解散となり長官又我等の意を酌み責任を以て要求案の實現に努力すべしと約されし上は長官を信用して其の實現の一日も速かならんことを期し若し容れられざる場合に於ては再び立つの外なかるべし」と結びて滿場之に和し同十一時半散會したり

徐々就業
千五百名入所

職工側にては休業繼續のため生活上困難なるものあり就業を希望する者多く二十七日朝に至り就業せんとする職工は益々増加し又前夜來熔鑛爐送風を開始し其の他中央機關部第三工場共徐々就業を見んとしつゝあり、二十六日夜の入所者は職工六百七十四、人夫百十五にして廿七日の入所者は職工千〇四十二、人夫四百六十二なり

暴行調査
罷業事件

に關し出張中なりし一色檢事は二十七日早朝製鐵所に赴き去る廿四日夜の暴行の跡を調査のため事務所を訪ひ構內各所を巡視し各工場の破壊されたる硝子窓、電話機、器具等を仔細に檢閱せり